

I. 導入

おはようございます。今朝、皆さんの心の状態はいかがでしょう。深い静寂に包まれた山の湖のようでしょうか。皆さんの心には平安がありますか。ヨハネ 14:27 で、イエスは弟子たちにこうおっしゃいました。

「わたしは、平和をあなたがたに残し、わたしの平和を与える。わたしはこれを、世が与えるように与えるのではない。心を騒がせるな。おびえるな。」この箇所は、キリストを信じる者すべてにキリストの平和が与えられると語ります。キリストにあって、私たちはこの世の何物も奪うことのできない平安をいただくことができるのです。



この世のものは平安をもたらしません。世の中には、怒りに満ちた人々がたくさんいます。活発な活動をしていない火山のように、表面上は平穏に見えても、内側には怒りが燃えたくらんでいます。そんな人は、いつ噴火するか予想が付きません。恐れや不安でいっぱいの人もあります。嵐の中に取り残された小舟のように、この世の荒波にもまれ、稲妻が光るごとにびくびくとおびえます。



しかし、怒りや恐れに支配されない生き方もあります。イエスはもっと良い生き方を提案されます。それは愛と平安の道です。とは言え、クリスチャンであっても、日常生活でキリストの平安をフルには経験していない人がほとんどでしょう。イエスをもっとよく知り、イエスと歩みをとみにしていくと、生活の中にも心の中にも平安が増していくという体験ができます。今日、皆さんがみことばをとおして、今までよりもっとイエスに近づかれますようにと祈ります。では、**使徒 10:34-43** をお読みしましょう。この箇所は、先週の聖書箇所と重複していますが、今朝改めて、いくつかの点に注目していきたいと思えます。

II. 聖書朗読 使徒言行録 10:34-43 (新共同訳)

10:34 そこで、ペトロは口を開きこう言った。「神は人を分け隔てなさないことが、よく分かりました。 10:35 どんな国の人でも、神を畏れて正しいことを行う人は、神に受け入れられるのです。 10:36 **神がイエス・キリストによって——この方こそ、すべての人の主です——平和を告げ知らせ、イスラエルの子らに送ってくださった御言葉を、** 10:37 あなたがたはご存じでしょう。ヨハネが洗礼を宣べ伝えた後に、ガリラヤから始まってユダヤ全土に起きた出来事です。 10:38 つまり、ナザレのイエスのことです。神は、聖霊と力によってこの方を油注がれた者となさいました。イエスは、方々を巡り歩いて人々を助け、悪魔に苦しめられている人たちをすべていやされたのですが、それは、神が御一緒だったからです。

10:39 わたしたちは、イエスがユダヤ人の住む地方、特にエルサレムでなさったことすべての証人です。人々はイエスを木にかけて殺してしまいましたが、 10:40 神はこのイエスを三日目に復活させ、人々の前に現してくださいました。 10:41 しかし、それは民全体に対してではなく、前もって神に選ばれた証人、つまり、イエスが死者の中から復活した後、御一緒に食事をしたわたしたちに対してです。 10:42 **そしてイエスは、御自分が生きてい**

る者と死んだ者との審判者として神から定められた者であることを、民に宣べ伝え、力強く証しするようにと、わたしたちにお命じになりました。10:43 また預言者も皆、イエスについて、この方を信じる者はだれでもその名によって罪の赦しが受けられる、と証ししています。」

III. 教え

ソビエト連邦によって東ドイツと西ドイツを分断していたベルリンの壁を覚えておられる方もいらっしゃるでしょう。1961年から1989年の約30年間、ベルリンの壁は東ドイツ人と西ドイツ人を隔てる敵意の壁でした。この壁は、人間の心の問題を象徴していると言えるでしょう。人間の心もまた、多くの敵意の壁によって隔てられているからです。



そのような敵がい心を内に向ける場合もあります。自分自身に対する怒りを感じるような場合です。また、外に向ける敵がい心もあります。家族や友だちに腹を立てることもよくあります。敵意の壁は、しばしば民族や国を対立させます。しかし、何よりも悪質な壁は、罪を持つ人間と聖なる神を隔てる壁です。

隔ての壁はたくさんあります。しかし、神に感謝しましょう。というのも、イエスを信じる者には、イエスご自身が隔ての壁を取り壊し、平安をもたらしてくださるからです。エフェソ 2:14 のみことばをご覧ください。「2:14 実に、キリストはわたしたちの平和であります。二つのものを一つにし、御自分の肉において敵意という隔ての壁を取り壊し、」ここで注目していただきたいのは、イエスご自身が私たちの平和だと語っている点です。知的な哲学や賢明な教え、禁欲や修行、または精力的な政治活動など、どれをとっても、敵意の壁を取り壊したり、平安をもたらしたりする力はありません。平安はそのようなものに見出せません。真の平安はイエス・キリストというお方のうちにのみ見出せるのです。

イエスご自身が私たちの平和です。この真理をあらわす表現が英語にはあります。“No Jesus, No Peace; Know Jesus, Know Peace.” これは、「イエスなしに平安なし。イエスを知れば、平安を知る」という意味です。イエス・キリストとつながる以外の方法では、永続する平安はありません。キリストの平和のみが、人間の心にいつまでも続く安らぎと喜びをもたらしてくれます。この平和は、イエスの十字架上の死が可能にしてくれました。「そんな残忍な死がどうやって平和をもたらすのか」といぶかしく思う人もいるでしょう。



けれども、この絵が示すように、イエスの十字架は私たちが神と和解し、神の元に帰る架け橋の役目をしてくれるのです。天地の創造主である全能の神は、まったくの正義で、完全で、聖なるお方です。それに対し、私たちは、正義とは程遠く、不完全で、汚れた者です。私たちの罪が私たちが神から引き離しています。その罪には死刑がふさわしいほどです。しかし、神は私たちがあわれみ、イエス・キリストという人の姿でこの世に来てくださり、救いをもたらしてくださいました。十字架上で、イエスは私たちのために死んでくださったのです。イエスは、私たちの身代わりとなってご自身の命を捧げてくださいました。十字架上で、神の正義は満たされ、神の愛と恵みとあわれみが注がれました。けれども、イエスご自身は罪のないお方でしたから、死がイエスを留めておくことはできませんでした。それで、三日後にイエスは墓からよみがえり、永遠に生きておられます。

このようにして、イエスの残忍な死が平和をもたらすのです。イエスの死がこの世が受けるべき罪の罰を担い、それによって、イエスを信じ、イエスに信仰を置く者に神との平和が与えられます。ローマ 5:1 はこう語ります。「このように、わたしたちは信仰によって義とされたのだから、わたしたちの主イエス・キリストによって神との間に平和を得ており、」この十字架は、イエスが

ご自身の死によって与えてくださった平和を示しています。十字架の周りの円は永遠を象徴しています。イエスが与えてくださる平和は永遠の平和であることを私たちに思い起こさせるためです。

使徒 10:36 と 10:43 をもう一度見てみましょう。そして、イエスについてここで何と言っているか考えてみましょう。使徒 10:36「神がイエス・キリストによって——この方こそ、すべての人の主です——平和を告げ知らせ、イスラエルの子らに送ってくださった御言葉を、」そして使徒 10:42「そしてイエスは、御自分が生きている者と死んだ者との審判者として神から定められた者であることを、民に宣べ伝え、力強く証しするようにと、わたしたちにお命じになりました。」

このふたつの個所で、イエスについて何と言っているでしょう。36 節はこう言っていました。「イエス・キリストによって——この方こそ、すべての人の主です——平和を告げ知らせ」そして、42 節にはこうありました。「御自分が生きている者と死んだ者との審判者として神から定められた者であることを、民に宣べ伝え、」何と言っているでしょう。イエスがすべての主であり、平和をもたらすお方だということです。同時に、イエスが生きている者と死んだ者との審判者でもあります。



人は死んだらどうなりますか。聖書ははっきりと語ります。人は死ぬとイエスの御前に出て裁かれなければなりません。無神論者、ユダヤ教徒、仏教徒、神道、ヒンズー教徒、イスラム教徒、クリスチャンなど、どんな信条を持っていても関係ありません。人は死ぬとイエスの御前に出て、イエスがその人の永遠の行き先を決めるのです。ヘブライ 9:27,はこう語ります。「また、人間にはただ一度死ぬことと、その後に裁きを受けることが定まっているように、」

これは不公平でしょうか。そんなことはありません。イエスはこの世の罪のためにすでに代価を支払ってくださいました。そして、心から悔い改めてイエスの御名を呼び求める者に、イエスは罪の赦しと救いを無償で与えてくださいます。イエスは、私たちと同じようにこの墮落した世の中に来て住まわれたので、誘惑や葛藤についてご存知です。ですから、イエスが人の永遠の行き先を決めることのできる唯一のお方であることは正しく良いことなのです。イエスを信じ、このお方を主として受け入れましょう。そして救われてください。イエスを拒絶すれば、このお方はあなたの裁き主となります。

この世でイエスを知り、イエスとともに歩む人は、イエスの御前に出たとき、歓迎を受け、永遠の喜びに迎え入れられます。イエスがタラントのたとえ話で説明されたとおりです。

Those who know Jesus and walk with Him in this world will be welcomed into eternal joy when they come before Him. It will be as Jesus described in the parable of the talents. **Matthew マタイ 25:21**「25:21 主人は言った。『忠実な良い僕だ。よくやった。お前は少しのものに忠実であったから、多くのものを管理させよう。主人と一緒に喜んでくれ。』」イエスは、私たちが死んで御前に出るとき、イエスの喜びを私たちにも分かちあってほしいと願っておられます。私たちがイエスと顔と顔を合わせてお会いするとき、その喜びに与る準備ができていますように、と私は皆さんのためにお祈りします。



IV. 結び

今日は最後に詩篇 85 編をお読みしたいと思います。この個所の最後に「正義と平和は口づけ」するとあります。これは、イエスが十字架上で成し遂げられたことを麗しく表していると思います。私たちの罪の犠牲として十字架上でご自身の命をささげること、平和の君であるイエスが、神の義を満たされたのです。そして、私たちに平和をもたらし、生きている者と死んだ者との裁き主となりました。

詩篇 85:8-11「85:8 主よ、慈しみをわたしたちに示し／わたしたちをお救いください。 85:9 わたしは神が宣言なさるのを聞きます。主は平和を宣言されます／御自分の民に、主の慈しみに生きる人々に／彼らが愚かなふるまいに戻らないように。 85:10 主を畏れる人に救いは近く／栄光はわたしたちの地にとどまるでしょう。 85:11 慈しみとまことは出会い／正義と平和は口づけし」

祈りましょう。

V. 祈り